



ひなどり

園だより 9月号
令和4年8月31日
新潟市立新津第三幼稚園

「学ぶ楽しさの原点」

園長 川合 千尋

幼児教育というと、時々、様々な早期教育に力を入れている場面を見ることがあります。英語、ピアノ、学習、スポーツなどなど、早期に教育をすることで大きな効果も期待できるという気持ちはよく分かります。そんな時に、おそらく保護者の方はお子さんの気持ち（〇〇をやりたい）を大切に、取り組んでおられると思います。一方で、子どもたちは、やりたいという気持ちとやらなければならない気持ちが相まって、そのバランスをとることが難しくなっている場面も見受けられます。そんな様子と幼稚園や小学校で見る子どもたちの様子と見比べて少し考えてみました。

小学校に入学した当初の1年生は「学びたい」「学ぶことが楽しい」という気持ちがたくさんあります。それが学年が進むにつれて、どうしても少なくなっていくます。私も経験があるので分かりますが、「学ぶこと」に成果を求められたり、受験などの手段として用いられたりするため、どうしてもやらなければいけないものになってしまい、苦しく感じてしまうからだと思います。そうはならないように小学校では様々な授業を工夫し、継続して努力をしています。

それでも、「学ぶこと」に何も求められなくなってくる（私の現状）と、だんだんと「学ぶこと」が楽しかったことが思い出されます。それは、小さい頃「学ぶ楽しさ」を伝えてくれた幼稚園の先生方のお陰だと強く感じています。新しいことを知る楽しさ、分からなかったことが分かる楽しさ、できなかったことができるようになる楽しさ、どれも小さい頃に味わうことができた楽しさです。

幼稚園では、子どもたちが遊びの中で様々な発見をしたり、言葉を覚えたりしています。そのような環境を整えているのが幼稚園の教職員です。子どもたちが気付いたり、考えたり、予想したり、工夫したりするなど、多様な関わりを楽しむようにするため、また、友達の様々な考えに触れ、自分と異なる考えがあることに気付き、自ら判断したり、考え直したりするなど、新しい考えを生み出す喜びを味わえるよう毎日様々な環境を創っています。そうやって「学ぶ楽しさの原点」を伝えていきます。

